

令和 7 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	75		学校名		茨城県立下妻第一高等学校				課程		全日制		学校長名		生井 秀一			
教 頭 名	森 田 正 彦											事務(室)長名		佐 藤 房 雄				
教職員数	教諭	43	養護 教諭	1	常勤 講師	3	非常勤 講師	5	実習教諭, 実習 講師, 実習助手	1	事務職 員	4	技術職 員等	3	計	60		
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合 計 ク ラ ス 数					
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通 科		120	120	122	118	127	108			369	346						

2 目指す学校像

学校教育目標

- 「文武不岐」実践のもと、知・徳・体を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成
- グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ」をもった生徒の育成

目指す学校像

- 主体性をもって様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	校訓に掲げる校規五章及び綱領三徳目を踏まえ、地域社会の要請や生徒の実態に基づき、128年の歴史と伝統を継承しつつ、新たな校風を確立し、社会に貢献できる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材の育成 （１）高い理想と旺盛な探究心をもって学習に精励する生徒 （２）集団の規則を遵守し、確固たる責任感をもって自律的に行動する生徒 （３）心身を鍛錬し、強靱不屈の精神をもって、不断に前進する生徒 （４）本校の伝統的精神を生かし、愛校心を持った全人的な生徒
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（１）生徒が能動的学習者となるような、教育内容の充実と指導方法の工夫改善 （２）生徒一人一人に合った高いレベルでの進路希望の実現 （３）各種学校行事及び部活動の充実 （４）安全教育、健康教育、人権教育、心の教育、主権者教育、道徳教育、情報モラル教育による豊かな人間性の育成
「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	（１）本学の学びに対する興味関心が旺盛で、深く探究しようとする強い意欲のある生徒 （２）グローバル化する社会の様々な事象に関心があり、英語等の言語習得及び異文化理解に積極的に関わろうとする生徒 （３）自分の進路実現に向かい、挫折や失敗を恐れず、主体的に努力を継続することができる生徒 （４）学校行事、生徒会活動、部活動などにリーダーシップをもって積極的に取り組む意欲のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、学校全体で授業改善に取り組んでいる。学校評価生徒アンケートでは「そう思う」「だいたいそう思う」をあわせて約90%の生徒が「授業がわかりやすい」と回答している。また、生徒には能動的に学習する姿勢を求めている。生徒アンケートでは「そう思う」「だいたいそう思う」をあわせて約85%の生徒が能動的に学習していると回答している。	「探究的な学び」の視点（課題解決型学習・プロジェクトベースドラーニング）で、「授業改善と学習評価の充実」に取り組み、結果として主体的に学習に取り組む姿勢を育てていくことが理想である。そのためにも、デジタルを活用した学習活動の研究は引き続き推進していかねばならない。
進路指導	進学実績としては、今年度入試における国公立大学現役合格者数が東京大、東北大を含む123名であった。私立大学に関しても早稲田大、上智大、東京理科大、GMARCH46名など、着実な成果を収めた。また、現役生が合格した国公立大学に進学する割合が94.3%ときわめて高く、「進学を前提とした受験指導」も実現されている。「チャレンジ・プロジェクト」に関しては、8事業での参加者による事業評価の肯定的回答が94.5%であった。各種講演会やポスターセッションなどに代表される「総合的な探究の時間」の充実が、個々の生徒や日々の授業における「探究的な学び」に還元される動きも定着しつつある。	少子化の進展もあり、各生徒の学力差がますます広がっている。生徒個々の自己実現を促すために、面談等を活用して進路希望などその実態把握に努め、適切な助言・指導を行う必要がある。また、社会全体が注力する新しい学問分野に関する研究を深め、その動向に即応した学習活動・学習指導のあり方を追究する必要がある。同時に、生徒の基礎学力の向上を図ることはもちろん、思考力・判断力・表現力の錬磨や、探究的活動の更なる強化・充実にも注力することが肝要である。昨年度来進む入試の更なる多様化と早期化に対する研究と対策も急務であろう。
生徒指導	大部分の生徒は社会の一員としての責任やマナーを身に付けており生徒指導上の問題は少ないが、一部に規範意識に対する認識の甘さから他人に対して迷惑をかける生徒がいる。	社会生活における規範意識の意義を十分に認識させ、それに基づいた行動を、生徒たちが自ら考え、実践できる力を身につける必要がある。（一般的なモラルやSNS関係） いじめの未然防止を図るためにも早期発見、早期解消に向け、さらなる取り組みを行う。
特別活動	部活動加入率が90%を超える中、大部分の生徒は文武不岐を実践し、部活動や生徒会活動にも積極的に参加している。昨年度も、多くの部活動において素晴らしい成績を収めることができた。学習と部活動を両立できている生徒は多いが、一方消化できていない生徒もみられる。生徒や保護者はもちろん、地域からも期待されている学校であるため、生徒一人一人の充実した学校生活が必須である。	多くの生徒が部活動に加入しているため、学習と部活動の両立を実現するために、その支援体制を確立する必要がある。 多くの行事に対し生徒が中心となるよう促し、創造性や自主性を重んじ、自ら企画し行動できるよう計画実施をしたい。 他校に比べても学校行事が非常に多いため、一部の教員や生徒に負担が偏らないようにする必要がある。企画の段階から多くの生徒が関わり、複数の小さな集団で運営・実行できるように工夫したい。
教職員の健康管理	学校業務においては、学級経営や進路指導等において、どうしても多忙な時期が発生してしまっている。教職員の健康保持の観点からもデジタル活用による効率化を進めている状況である。時間外勤務の月平均（29時間13分）、月平均45時間超過者割合（20.4%）、月平均80時間超過者割合（2.0%）	生徒へのきめ細やかな指導の質を維持、さらに教員の働きがいを継続しながら、諸業務の効率化や組織改編を推進し、具体的な超過勤務の削減を行っていくこと、月平均45時間超過者割合・月平均80時間超過者割合の減少させていくことが課題である。

5 中 期 的 目 標

- (1) アントレプレナーシップのもと、文理横断型の探究的な学びを通じ、自ら課題を設定し、よりよい解決方法を考える能力を養う。
- (2) 生徒の資質・能力の育成のため、それに資する特色ある教育課程を編成するなどカリキュラム・マネジメントに努めるとともに、授業改善と学習評価の充実に取り組む。
- (3) 生徒一人一人の高いレベルでの進路希望の実現を目指して、きめ細かな個別最適な進路指導を展開する。さらに、難関国公立大学や難関私立大学、医学部医学科を目指す生徒を強力に支援する。
- (4) 生徒が生き生きとした学校生活を送れるように、各種の学校行事及び部活動の充実を図り、愛校心を涵養するとともに、新たな伝統の継承に努める。
- (5) 安全教育・健康教育・人権教育・心の教育・主権者教育・道徳教育・情報モラル教育を関連させながら実施することにより、生徒の内面的な充実を図るとともに、非認知能力の育成を積極的に行うことで豊かな人間性を育成する。
- (6) 生徒へのきめ細やかな指導の質を落とすことなく、教職員の健康保持の観点からも学校全体で働き方改革を推進する。

【数値目標】

- ① 難関国公立大学の現役合格（東北、東京、東京科学、東京外国語、一橋、京都）の現役合格者10名以上を目指す。
- ② 国公立大学(筑波、茨城、県立医療)の現役合格者40名以上、医学部医学科の現役合格者3名以上を目指す。
- ③ 難関私立大学（早稲田、慶應、上智、東京理科、国際基督）の現役合格者15名以上を目指す。
- ④ 部活動加入率90%以上を継続する。
- ⑤ 茨城県高等学校総合体育大会で男女ともに総合10位以内を目指す。
- ⑥ 校則違反者0名を目指す。
- ⑦ 超過勤務の上限について、1ヶ月45時間、1年について360時間为目标とする。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
探究的な学びの推進	① 自ら社会課題を見つけ、課題解決に向かってチャレンジし、他者との協働により解決策を探究することができる知識・能力・態度を身に付ける教育（アントレプレナーシップ教育）を推進する。 ② デジタルの活用により、協働的・探究的な学びを推進するとともに、個に応じた柔軟かつ多様な支援を充実させる。さらに、習熟度別授業を取り入れ、理解が不十分な生徒への対策を強化する。
授業改善による学力の向上と進路指導の充実	③ 確かな学力（知識及び技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度）をバランス良く育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上（授業改善）を推進し、魅力ある授業を実施し、「授業満足度」の平均値3.0以上を目指す。 ④ 指導と評価の一体化（観点別評価の充実）を実施する。また、教育課程や入試はもとより、大学・研究機関・企業等が導入している新しい学問分野についての研究を更に深め、それらの動向に即応した指導のあり方を追究していく。
特別活動の活性化と健全な心身の育成	⑤ ホームルーム活動や学校行事、部活動等への積極的な参加を通して、強い精神力や協調性、自主自律の精神を育む等健全な心身の育成を図る。またキャリア・パスポートの活用を推進し、生徒が自ら活動を振り返り、検証する姿勢を育てる。 ⑥ 学校行事の改善充実を図るとともに、生徒の自主的活動を支援していく。 ⑦ 茨城県および本校の部活動運営方針に則り部活動の活性化を推進し、1年生の部活動加入率90%以上を維持する。 ⑧ 外部指導者の活用や指導者講習会等への積極的な参加を奨励し、生徒の安全面・健康面に配慮しながら指導力向上を図り全国大会など県外大会出場を目指す。
人間尊重の精神の涵養と規律ある生活習慣の確立	⑨ 自律の精神や自己指導能力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。 ⑩ 規範意識の高揚を図ると共に、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者0名を目指す。 ⑪ 基本的生活習慣の確立に努め、メリハリをつけた行動が取れる人間の育成に努める。
環境美化を通じた心の教育	⑫ 清掃活動の徹底を図り、環境美化に対して主体的活動ができる態度の養成に努める。
広報活動の推進と地域との連携強化	⑬ ホームページやSNS等を活用し、積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。 ⑭ ボランティア活動への積極的な参加を推進し、地域との連携強化を図る。 ⑮ 学校説明会の充実に努めると共に、小学校・中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。 ⑯ 学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。
いじめの未然防止、早期発見、早期解消の確立	⑰ 授業やHR活動などあらゆる教育活動を通して、豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人交流能力を養うことで、いじめを生まない環境や学校風土を作る。さらに生徒のささいな変化（違和感）を見逃さないよう、生徒をよく観察するとともに、定期的な個別面談を実施し、教職員と相談しやすい関係の構築に努める。 ⑱ 生徒の命を守るため、いじめ等の事案に対しては校内連携（複数対応）を図り家庭との連絡を密にする。また、必要に応じてスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・外部機関等とも連携をしていく。 ⑲ 情報モラル教育を推進し、SNS等を通じて行われるいじめの未然防止と早期発見に努める。
教職員の健康保持	⑳ デジタルを活用して諸業務の効率化を推進し、それぞれの立場で小さな改善を積み重ねる。

「チャレンジプロジェクト」について

- ・「文武不岐」の実践の中で、知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな人材の育成
- ・地域社会、国内はもちろん世界にも視野を広げ、地域社会、国内の各界、国際社会に貢献できる人材の育成

1 為櫻グローバルプログラム

国際的な視野に立って考え、行動できる力をつける。

2 難関大学進学支援「東大倶楽部」

難関大学合格を目指し、そのモチベーションと学力を高める。

3 医学部医学科進学支援

医療の現状と医師の使命について学ぶとともに、医学科進学への力をつける。

4 教育学部系進学支援

小・中・特別支援学校、大学、教育委員会との連携による研究会を通して、教師を目指す生徒を支援する。

5 部活動強化支援

全国規模での活躍を目指し、外部講師からより高いレベルでの専門的指導を受ける。

6 進路探究

生徒一人一人の主体的、かつ総合的なキャリア形成を目指す。

7 地域探究

市役所や地元企業と連携し地域課題の解決を図る。